

つくし野中だより

第16号
令和3年3月22日

校長挨拶

柳田 拓史

卒業生の皆さんへ（卒業式式辞より）

卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。
卒業証書を受け取る皆さんの表情には、義務教育9年間の学びを得て、一段と立派に成長した自信と誇りが感じられ、大変嬉しく思います。
今日この日を迎えるまでには、きっと多くの苦勞と困難があったことでしょう。

殊に、最上級生として迎えた最後の1年間は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、長期にわたる臨時休校期間を含み、多くの行事が中止、延期を余儀なくされました。
中学校生活の集大成として、また苦樂を共にした仲間との最後の思い出の時間として、楽しみにしていた卒業生の皆さんの気持ちを思うと、大変申し訳なく思います。
しかし、皆さんはその環境の中で最善を尽くし、多くの足跡をつくし野中学校に残してくれました。

体育祭全校ダンス「蕾」。このタイトルは「今後花開くために、蕾として先頭に立つ。」という皆さんの願いが込められたものでした。
その言葉通り、学校の先頭に立ち、初めての試みとして行った全校ダンス完成まで、見事なリーダーシップを発揮しました。
当日は全校生徒一人一人に蕾の精神が行き渡ったかのように、一糸乱れぬ演技を披露してくれて、素晴らしい大輪の花を咲かせてくれました。

そして、もうひとつ。今ある決まりについて全校生徒が深く考える機会をつくってくれたことです。
生徒会本部役員を中心に、3年生の皆さんが力を合わせて、意思決定の過程において全校生徒一人一人から考えを聞き、合意形成を図りながら、丁寧に推進してくれました。
そこには、生徒一人一人を大切にしようとする気持ちが感じられ、皆さんが学んだSDGsの精神「誰一人取り残さない」に相通ずるものがあったと思います。

卒業生の皆さんは、今日をもって義務教育9年間の全課程を修了します。明日以降、地球という大きな社会を形成する一員としての第一歩を踏み出します。
そこには、大きな夢と希望があり、素晴らしい出会いが待っていることでしょう。その一方では、多くの苦勞や困難も待ち受けているかもしれません。
しかし、どんな環境においても私たち人間は、共に力を合わせ、知恵を絞り、幸せを分け合いながら生きてきました。
この先、喜びや嬉しさを分かち合う時はもちろんのこと、苦勞や困難に直面した時も、共に生きる仲間と手を取り合い、助け合いながら乗り越えていってください。それこそが、私の願う「一人一人が大切にされる社会」です。

最後になりましたが、保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。
これまで惜しみない愛情を注いでこられたお子様の立派に成長された姿をご覧いただき、深く感謝申し上げます。
また、この度は、本日に至るまで、ご不自由・ご不便をおかけいたしましたことを、お詫び申し上げますと共に、これからのお子様のご活躍と明るい未来を願い、心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。

早春の息吹を心地よく感じられる季節となりました。
新型コロナウイルス感染拡大によって、緊急事態宣言が出されていますが、ここに卒業式を迎えることができ、とても嬉しく思います。今日をもって私たち254名は、それぞれの道へ進むこととなります。

私たちは三年間の中学校生活を通して、色々なことを経験しました。その中で、大きく影響を受けたのは、一斉休校でした。学校へ行けず、友達にも会えなくなり、先が見えないことに不安を感じました。そして迎えた最初の一斉登校日。クラスの全員と顔を合わせられた時の喜びは、忘れることができないほど、大きなものでした。私たちは毎日学校へ行けることのありがたさや、友達の大切さを改めて感じました。

感染拡大による影響で、学校再開後も様々な行事が中止になったり、縮小されたりしました。そんな中でも、私たちは日々の学校生活を見直し、セーターに関する校則の改正に積極的に取り組みました。みんなで集まることが出来ず、大変でしたが、協力し合い、放送で行ったり、パソコンを使って採決をするなどの代替の方法を考え、最後までやり遂げることが出来ました。私たちの挑戦を支え、この状況で私たちが出来たことをたくさん作ってくださった先生方、ありがとうございました。

学校が再会してから、私たちは、一分一秒をより大切に過ごすようになったと思います。この変化する日常を乗り越えてきた私たちは、とても強い絆で結ばれていると感じます。長い休みの後で、はじめは、クラスに緊張感がありました。しかし、すぐに打ち解け、体育祭の時には、各クラスが一生懸命練習に励み、本番では、全体が一つになり、とても白熱しました。同じ時を支え合いながら過ごしてきた仲間にも改めて感謝したいです。ありがとうございました。

そして、誰よりも私たちの近くにおいて、応援してくれた家族。私たちは、時々反抗的な態度をとってしまいました。しかし、そんな不安定な時も含めて、私たちのすべてを見守ってくださり、ありがとうございました。これからも、よろしくお願ひいたします。

二年生、一年生の皆さん。私たちが下級生の時、先輩方の姿は大きく見えました。そして私たちに後輩が出来た時、より良い先輩として、後輩の前に立ちたいと思い、私たちに努力してきました。私たちは皆さんに「良い先輩」像を見せることが出来たのでしょうか。もしそうであれば、伝統である挨拶や礼儀も大切にして、次の後輩にかっこいい姿を見せてあげてください。私たちは皆さんがいてくれたからこそ、ここまで頑張ることが出来ました。これまで私たち三年生を支えてくれて、ありがとうございました。

私たちは四月から、それぞれの夢を抱えて、別々の道を歩いていくこととなります。その夢を叶えた先にいる自分こそ、今の自分にとって「素敵な人」だと思います。夢に向かって進んでいく中で、時には、自分と周りの人を比べて、焦りや劣等感を感じることもあるかもしれません。そんな時、みんなと過ごした日々を思い出して、再び歩み始められるように、思い出して欲しい詩があるので紹介します。

「それぞれの道」 田口 久人

これまで歩いてきた道を
振り返るときがくる
当たり前笑顔があつて
懐かしい声が聞こえて
戻りたいと思つても戻れない
あのとき見た夢を信じて
僕たちはそれぞれの道を歩く
傷つくことがあつても
壁にぶつかつても自分の道を信じる
確かな答えなんかなくても
そんなに不安であつても

前だけを向いて歩く
別れなんてない
一人じゃない
この空でつながっている
また会おうこの場所で

私たちはSDGsの学びを通して、新型コロナウイルス以外にもたくさんの課題があることを学びました。困難なことではありますが、世界中でそれを解決しようとしている人がいることも学びました。この課題の解決を通して私たちが実現したい社会は、「自分だけでなく、人間だけでなく、今だけでもない。地球上の全てがずっと平和に過ごせる社会」なのではないかと思います。実現するのは、まだまだ先かもしれませんが、多くの人が行動を始めています。それは希望と言えるのではないのでしょうか。そして、私たちが抱くそれぞれの夢もまた、希望だと思えます。

私たちはこれから、中学校で学んだことやたくさんの思い出を胸に、希望を信じて歩き始めます。そして自分の思う「素敵な人」を目指して、社会の中で頑張っていくことを誓い、卒業生代表の言葉とさせていただきます。

在校生代表の言葉

瀧山 言基

厳しい冬の寒さも和らぎ、校庭の桜とつばみが膨らみ始め、生命の息吹が感じられる季節となりました。本日晴れてつくし野中学校を卒業される3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表してお祝い申し上げます。

今皆さんは、このつくし野中学校での三年間をどのように振り返っていらっしゃるのでしょうか。先輩方の胸の中には、様々な思い出がよみがえっていることと思います。二年前、僕たちが新生活への期待を胸に、新入生としてつくし野中学校の門をくぐったときから、皆さんは常に僕たちの模範でした。先輩として委員会や部活動では時に厳しく、時には優しく指導してくださいました。そんな先輩に憧れ、先輩方のように後輩を導くことが出来る人間になりたいと思い、過ごして参りましたが、皆さんの背中にはあまりにも遠く、なかなか追いつけそうにありません。

合唱祭の縦割り練習で、僕らは自分たちの合唱がまだまだ皆さんの合唱に比べ、旋律がまとまっていないことを知りました。一昨年の合唱祭で、皆さんが歌われた『風を見つけて』は主旋律がしっかりと表現されていました。さらに、それぞれのパートが重なり合っていて、迫力のある歌声を響かせていたことは、この合唱祭で一番記憶に残りました。皆で協力して、支え合って紡がれた歌声は力強く、そんな先輩方の合唱は、今でも僕たちの目標であり、これからも変わることはありません。

今年度は残念ながら、新型コロナウイルスの影響で、合唱祭を開催することは叶いませんでした。最上級生となった皆さんの合唱を楽しみにしていたので、僕自身も残念でした。3年生にとっては、この合唱祭が中学校での最後の合唱祭だったため、僕以上に悔しい思いをされたことと思います。

今年度は他にもいろいろな行事が中止になりました。しかし、そんな中でも皆さんはくじけず、前を向いて進もうと、今出来ることに懸命に向き合っていたらっしゃいました。その姿は僕たちに、何があってもあきらめないことの大切さ、全力を尽くす尊さを教えてくださいました。それを最も強く感じたのが、体育祭でした。

昨年の体育祭は例年と違って、種目がかなり減りました。そんな中、新しく生まれた種目があります。全校演技『蕾』です。皆さんが蕾をつくりあげていく姿は僕の脳裏に特に焼き付きました。3年生は1、2年生よりも難しい振り付けを繊細に、そして大胆に踊られていました。練習の時には、振り付けを僕たち後輩に優しく、そしてわかりやすく教えてくださいました。体育祭当日では、皆さんは全校生徒の中心で演技を導いてくださいました。演技も終盤になり、最後の3年生が輝く場面では、皆さんは蕾ではとどまらず、全校演技に、そして体育祭に素晴らしい花を咲かせてくださいました。この体育祭で3年生の皆さんが見せてくださったリーダーシップは、僕たちの大いなる指針となり、目指すべき姿として心に刻まれました。

また、今年度は生徒会への要望が多かったセーターについての校則を見直すために何度も臨時中央委員会を行いました。そこでも先輩方は最高学年としてリーダーシップを発揮され、積極的に意見を出してください、ついに試行期間を設けることになりました。この先は皆さんの思いをすべて僕たち

が受け取り、より過ごしやすい学校生活を送れるような環境を整えていきます。

今こうして振り返ってみますと、皆さんは常に僕たちの目標であり、心から頼れる存在でもありました。先輩方が日々、それぞれの夢へと前進し続ける姿を、僕たちはずっと見てきました。これからは僕たちが3年生に代わって、このつくし野中学校を引っ張り、先輩方が築き上げられてきた伝統を次の世代へと伝えていく存在にならなければなりません。

皆さんは、これからそれぞれが選ばれた道へと進んでいきます。その中で、困難や大きな壁にぶつかることもきっとあると思います。そんな時にこそ、このつくし野中学校で皆さんが発揮されたリーダーシップや友達と築いた友情を思い出し、力強い一歩を踏み出してください。

最後になりましたが、先輩方のご健康とご活躍を祈念して、在校生代表の送る言葉とさせていただきます。

卒業生の歌「予感」

「予感」

心の中に ひとつの予感
影をなす 不安と焦りのかなたに
光あふれる 美しい世界が 広がる
いま乾ききった大地に
一本の苗を 植えよう
希望と愛を託して
一本の苗を 育てよう

心まで 干涸らびさせてはいけない
若くしなやかな力を 失ってはいけない
明日は明日は 私たちの手にあるのだから

心の中で ふくらむ予感
迫り来る 試練と嵐のかなたに
さやかな やすらぎの世界が広がる
緑さやかな 世界が広がる

今 勇気をもって大地に 一杯の水を注ごう
平和と夢を 平和と夢を 託して
一杯の水を汲み出そう

卒業生の皆さん、素敵な予感をありがとう。
この歌はご存知の通り、「環境」というテーマを受けて、地球環境を意識した内容の表現が繰り返し登場します。
でももうひとつ、これらの表現は、人間社会における愛や夢・希望といったものの暗示でもあると言われています。

皆さんが今日無事に中学校を卒業し、これからの長い人生を自らの夢に向かって生きていくことは、なんと素晴らしいことでしょう。
人が人と出会い、平和な社会や夢の実現に向けて、力を合わせて生きることは、なんて尊いことでしょう。

それぞれが一本の苗を大事に育てて、いつかその苗は大きく育ち、互いに支え合っていくのです。
卒業おめでとう。皆さんの前途に幸あれと願わずにはられません。
そして、今日までつくし野中学校の大黒柱として支えてくれたことを、心から感謝します。



